

# 第2章 4

## つなみ 津波の歴史 ①

副読本 22 - 23 ページ

年 組 番 名

1 か こ さいがい ひが い 過去の津波災害を調べ、どのような被害があったのか書きましょう。

### 869(貞観11)年の地震【M8.3】

城郭、倉庫などが崩れ落ち、倒壊が多数。津波が襲来し、海水は城下(現在の多賀城市)にまで到達。死者がおおよそ1,000人。 出典：仙台管区気象台

図上地理院による2011年東北地方太平洋沖地震における津波浸水域

対置堆積物の分布から推定される869年貞観地震の津波浸水域(行谷まが、2010におけるmodel10)

● 2011年の津波による砂質堆積物の到達境界  
● 2011年の津波による泥質堆積物の到達境界

009年貞観地震時の推定海岸線

参考：(1) 著者名・穴倉正展 (2) 記事タイトル「津波堆積物からみた869年貞観地震と2011年東北地方太平洋沖地震について」(3) 出典元・日本地震学会ニュースレター NL23-3, pp.23

### 2011(平成23)年【M9.0】東北地方太平洋沖地震の震源地

ユーラシアプレート 北アメリカプレート 太平洋プレート アイリピン海プレート

● 震源地 ● 震源域

※貞観、慶長の地震は、詳しい解析に向け、今なお調査と研究が進められています。そのため、震源地のみを示しています。

参考：仙台管区気象台・内閣府 中央防災会議「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会報告図表集」、広島大学 片山郁夫著「プレート収束帯の地震発生について」

### 1896(明治29)年 明治三陸地震【M8.2】

午後7時半ごろ震度2～3の地震発生。三陸沿岸に地震後約35分で津波が襲来。死傷者4,693人(県内)。

揺れが小さくても津波が来たんだね。

出典：宮城県災害年表 内閣府「災害史に学ぶ」中央防災会議『災害教訓の継承に関する専門調査会』編

気仙沼市唐桑町馬場地福寺にある当時の記録を残した石碑(1904年3月建立)

### 1933(昭和8)年 昭和三陸地震【M8.1】

午前2時半ごろ震度5の地震発生。三陸沿岸に地震後約30分～1時間で津波が襲来。死者・行方不明者308人(県内)。

破壊された岸壁と打ち上げられた船(宮城県女川町)

出典：宮城県災害年表 内閣府「災害史に学ぶ」中央防災会議『災害教訓の継承に関する専門調査会』編

右巻市北上町十三浜にある石碑(1934年3月建立)

※M=マグニチュード

### 1611(慶長16)年の地震【M8.1】

三陸地方で強震。津波による被害が大きかった。伊達政宗領内で死者1,783人。宮城県岩沼市などにも津波がおし寄せた。

貞観、慶長の津波も内陸まで浸水したんだね。

出典：仙台管区気象台ホームページ

東日本大震災 慶長三陸地震津波 貞観地震津波を含む層

写真提供：岩沼市教育委員会

時代の異なる3層の津波堆積物を発見(岩沼市)

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

その他にも、どのような津波災害があったのか調べてみましょう。